

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究抄録(2022.4)令和2・3年度:

,

# 外来がん化学療法移行に関する病棟看護師の臨床判断プロセス

○竹田弥穂<sup>1)</sup> 升田由美子<sup>2)</sup>

1) 旭川医科大学病院 看護部 2) 旭川医科大学医学部看護学講座

## 【目的】

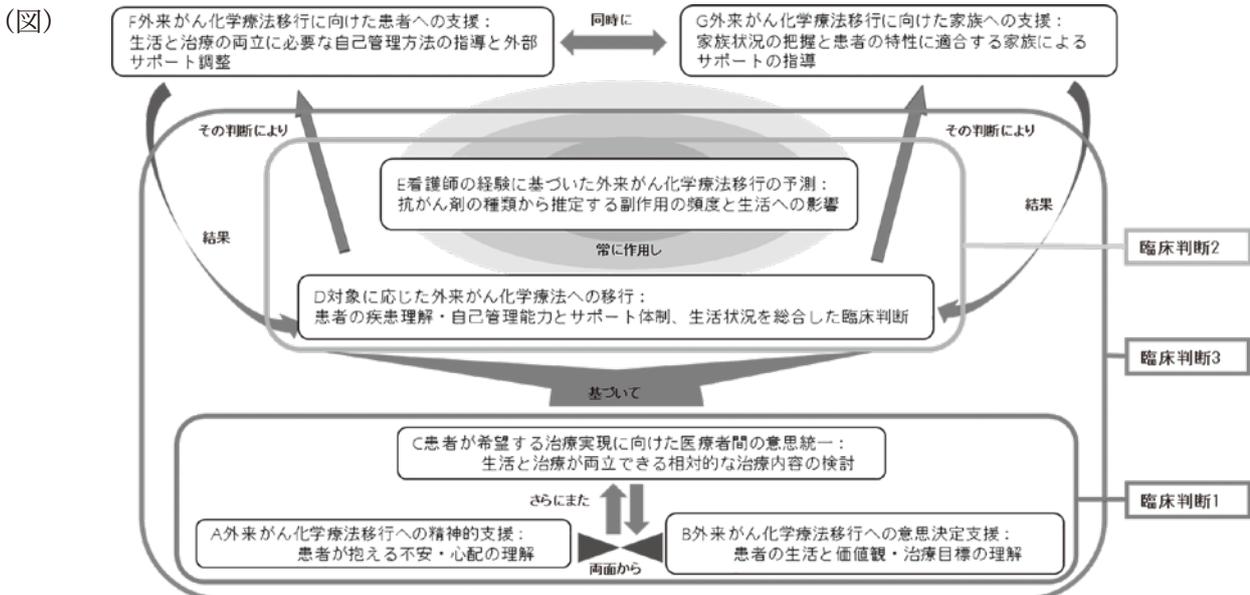
病棟看護師が、外来がん化学療法予定患者の移行についてどのように判断しているのか、その臨床判断プロセスを明らかにする。

## 【方法】

臨床経験年数5年以上、現在がん化学療法患者が入院する病棟で3年以上勤務し、外来がん化学療法に移行した患者を受け持った経験のある病棟看護師8名を対象とし、受け持ち患者1事例の退院までの看護ケアと外来化学療法への移行が可能と考えた内容について半構成的面接を行った。データ分析方法は、山浦(2012)の質的統合法(KJ法)を用いた。本研究は研究者所属施設の倫理委員会の承認(15045)を得て実施した。

## 【結果】

研究協力者8名の個別分析結果に基づき、総合分析を行った結果7つのシンボルマークが導き出され、1～3の臨床判断プロセスが明らかとなった(図)。



## 【考察】

看護師はABCから [1: 患者の希望に沿った生活が可能ながん化学療法の方向付け]、DEから [2: 抗がん剤による生活への影響を考慮した自己管理方法と外部・家族のサポート体制の構築]、そして、[1] [2] を総合して [3: 総合的な外来がん化学療法移行の可能性] について臨床判断を行っていたと考える。看護師は、患者の希望する生活の実現に視点を向け、不安の解消と生活と治療を両立できることが重要と考えていた。そして、過去の経験に基づき、抗がん剤による生活への影響を予測し、患者自身で副作用をコントロールできるような指導を実施していた。外来がん化学療法移行に関する看護師の実践的知識を経験の浅い看護師に継続教育を通して共有することが患者のQOL維持につながると思う。